

1. 活動日時

令和4年8月8日（月）8:00-17:30

2. 活動場所

福井県南越前町新道地区・大桐地区

福井県中央部にある南越前町。この地は、海（河野地区）と山（今庄地区）、里（南条地区）三つの地区それぞれに固有の特徴を持つ人口1万人あまりの小さな町でもある。その中で今庄地区は、大半が山間地だけに、その厳しい環境を活かした蕎麦の栽培が盛んで、現在も「今庄そば」はこの地区一番の特産品として知られている。江戸時代に近江米原（滋賀）より越前今庄（福井）を経て、直江津（新潟）につながる北国街道の宿場町として栄えた地でもある。

3. 被害状況

活動日の状況：2022年8月東北、北陸大雨災害3日後

気象庁によると、5日午前までの24時間に福井県南越前町で、8月1カ月の平年降水量の2.2倍にあたる405.5ミリを観測した。南越前町では各地で断水が相次ぎ、7日午前11時の時点でも500世帯以上で断水が続いている。新道地区、大桐地区は道路が閉鎖され、特に大桐地区は孤立状態となっていた。

<下新道地区>断水が続いている。土砂で道路が分断され道一面に水流が500メートル流れている。絶えずダンプカーが行き交い砂埃を巻き上げている。

<大桐地区>大橋の崩落により、孤立地区となっている。大雨の影響で床上浸水5件、床下浸水5件。断水・携帯繋がらず。

4. 活動の実際

8:00 南越前町ボランティアセンターに到着。南越前町保健師の依頼を受け、大桐地区までの道路の下見をする。南今庄から新道地区までの道路が陥没して修復中であり先に進めずボラセンに戻る。

8:45 福井大学医学部学生10名と合流。酒井隊員のオリエンテーション後、大桐地区の視察を徒歩で行った。

10:00 8名の学生と花房が3班に分かれ、下新道地区の方の案内で健康チェックシート、血圧計、サチュレーションモニターを用いて8軒12名の高齢者の健康観察等を行った。ボラセンより各戸2~3名のボランティアが派遣され、水を含む土砂や家具が運び出されていた。水分の資源物資は各個に届けられていた。

11:50 増田氏チームと合流。

12:10 ボラセンに戻り酒井隊員と合流し報告会を行い午後の予定を確認した。

5. 健康上の問題・課題

- ・ 80 歳代男性：床上浸水。脊柱管狭窄症にて下肢のしびれあり。被災後しびれに変化はないが、不眠あり。家や家財の被害を受け精神面で「ご先祖様に申し訳ない。今後望みがない」と悲観していた。
- ・ 80 歳代女性：独居。自宅被害なし。昨日も訪問した方で、元気に世間話をされていたが不眠が続き頭重感あり。土砂が流れていく様子の描写の会話が切れない。高血圧、下肢の痛みあり。聞き取り中に診療所より 2 回状態確認の電話が入る。生活用水は近所の人に持ってきてもらっている。入浴出来ないことがストレスとなっている。
- ・ 80 歳代女性：独居。自宅被害なし。持病に心臓の手術既往あり。降圧薬、ワーファリン内服中。血圧 150/80mmHg 台と高値であるが、「内服しているから大丈夫。いつもこんな値。」と気にされていなかった。
- ・ 80 歳代夫婦：自宅被害なし。両者とも持病の悪化なし。生活用水がないことが不便。自宅被害にあっていないのに持病のために被害にあった家に手伝いにいけないことを申し訳ないと思い「地区の人に謝りに行った」と話す。
- ・ 80 歳代女性：独居、自宅被害なし。高血圧の持病あり。被災後身体面、精神面に影響ないと血圧 160/80 mmHg 台、いつも高いからと気にされていない。
- ・ 70 歳代女性：自宅被害なし。「自宅が被災していないし少しでも手伝わないと」と話す。被災した家の手伝いをして帰宅したところ SpO2 が 90% と低く深呼吸を促す。血圧、脈異常なし。徐々に SpO2 93% まで上昇する。疲労がみられており、休養と水分補給を進めた。持病にネフローゼ症候群あり。
- ・ 80 歳代夫婦：自宅被害なし。7 人家族で妻認知症あり、常に夫が付き添っている。夫頻尿あるが被災により持病の変化はない。
- ・ 70 歳代女性：自宅被害なし。リウマチの内服が来週切れるため、「送ってもらえるのか心配」と話す。
- ・ 70 歳代男性：普段の血圧 120/86mmHg とのことだが、測定時血圧 178/100mmHg。特に自覚症状なし。これまで降圧薬の内服はなし。診療所の医師に連絡し処方を受ける。区長であり、ここ数日休むことなく区民への対応を行っており、疲労が重責している。休息後に再度測定するが下降せず。

<下新道地区>

発災 3 日にて、2 日目には元気に話されていた方が不眠により頭重感が生じている。また、被災高齢者の家や財産の喪失感があり悲観していることで重大な疾患に移行しかねない。被災していない方は気兼ねがあり、持病があるにも関わらず手伝いにいき体調に異変を感じている。手伝いに行けない方も申し訳ないという思いを抱えていた。また、血圧管理が重要な持病があるにも関わらず血圧の高値を気にしていないという方が 2 名いた。以上にことより、断水が 3 日続くことの不眠や近所への遠慮による過労、喪失感による悲観など重大な疾患に移行しやすい状況になっていた。可能な限りの巡回が必要であり保健師への連絡、診療所の情報共有が急務であると感じた。

<大桐地区>

孤立地区であり、ライフラインが途絶え、情報も入らない。住民間で助け合い、泥除けしている。道路の寸断のため、車両は侵入できない。ボランティア支援も受けられず、支援の格差によるストレスもある。入浴・食事・排泄などすべての日常生活に支障をきたしている。

血圧上昇が認められた方については、診療所・保健師などの LINE グループにて情報伝達処方を受ける。しかし、片道 2 時間で役場まで薬を取りに行くことができないため、明日届けることにした。タイム

リーな受診や内服調整ができない。

6. 所感

工事車両が多く車を停める場所が少ない。停める場所の許可の確認が必要。道路が寸断されているため運転に注意。道路でも土砂が残っている箇所は足が抜けなくなる。2名以上で行動する。水が流れている道路もあり長靴が必須である。

孤立地区の住民にとっては、ライフラインの寸断に加え、情報不足、物資不足、連日の炎天下での泥除けで、精神的に限界の表情がうかがえた。必要な物資や身体症状に対する内服薬の管理、精神的な面での支援が急務である。道路の復旧予定は11日であり、数日の支援方法を検討する必要がある。

今回の巡回にて、ボランティアが入らずとも隣近所の強いつながりで助け合っている地域であることを感じた。しかし強いつながりがあるからこそ、被害に遭わなかった家の方に申し訳ない、体調が悪くても手伝いに行くという思いが健康に影響していることを認知した。昨日と同じ方を訪問して体調の変化に気づくことが出来た。以上のことより、断水が継続していることもあり、日々体調が変化しているため、可能な限りの巡回が必要であり保健師への連絡、診療所の情報共有が重要である。

